

令和4年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和4年7月6日（水曜日）

○日時 令和4年7月6日 午前10時00分開会

○場所 議場

○議件

1. 一般廃棄物処理について

①第3回網走市廃棄物減量化等推進懇話会の進捗状況について

②市としての一般廃棄物処理の反省と検証について

③委員会としての一般廃棄物処理の反省と検証について

○出席委員（6名）

委員長	松浦敏司
副委員長	近藤憲治
委員	石垣直樹
	金兵智則
	工藤英治
	澤谷淳子

○欠席委員（0名）

○委員外議員（0名）

○傍聴議員（1名）

山田庫司郎

○説明者

副市長	後藤利博
市民環境部長	武田浩一
生活環境課長	近藤賢
生活環境課参事	田中正幸

○事務局職員

次長	石井公晶
総務議事係長	法師人絵理
総務議事係	早淵由樹

午前10時00分開会

○松浦敏司委員長 おはようございます。

ただいまから、文教民生委員会を開会いたします。

始まる前に、今日は大変湿度が高いので、蒸しております。

上着を脱いでいただいても結構ですので、それぞれ判断して、上着を脱ぐ方は脱いで結構ですので、理事者のほうもそのようにしていただいても結構です。

それでは始めます。

今日は、所管事務調査であります。

進行ですが、まず初めに、理事者より、第3回網走市廃棄物減量化等推進懇話会の進捗状況について、二つ目に、市としての一般廃棄物処理の反省と検証について説明を受け質疑を行います。

その後、理事者退席の後に委員間討論を行います。

それでは、第3回網走市廃棄物減量化等推進懇話会の進捗状況について、さらに、市としての一般廃棄物処理の反省と検証について、一括して説明を求めます。

○近藤賢生活環境課長 資料1号、一般廃棄物処理についてを御覧願います。

一つ目でございます。

第3回、網走市廃棄物減量化等推進懇話会の進捗状況についてでございます。

（1）第3回懇話会の開催結果についてです。

開催日時は、昨日、令和4年7月5日火曜日、6時30分から、開催場所はエコーセンター3階学習室で行いました。

資料につきましては、別紙のとおりとなります。

また、当日の資料、その他の資料についても別紙のとおり添付をしております。

なお、さきに提出公表しました、市としましての一般廃棄物処理の反省と検証についても、この場で説明させていただきました。

今後、1市4町での広域処理に向けた協議と調査を進めていくことも、併せて説明したところでございます。

そして、6月に実施させていただきました、市民説明会での意見、生ごみ堆肥化施設の現状、ステーション収集と個別収集についても説明し、意見交換を実施したところでございます。

（2）でございます。

第4回の懇話会の予定についてです。

第4回の予定日時は、令和4年9月1日木曜日、午後6時30分から開催場所は同じくエコーセンター、中の会場は大会議室を予定しております。

続きまして、二つ目の、市としての一般廃棄物処理の反省と検証についてでございます。

資料、後ろのほうになるのですが、網走市一般廃棄物処理についてということで、6月28日付で作成しております。

この中身でございますが、まず、1項目に、事業計画策定の経緯ということございまして、平成22年度に策定しました、網走市一般廃棄物処理基本計画の基本方針に基づき、網走としましては、ごみダイエットのやさしいまち網走を本市のスローガンとしまして、市民、事業者、行政である市が合意のもとに協働して、ごみ処理に関わる取組を一体的に進めるとしております。

このことを実現するために、それまでは、破碎、埋立処理をしていたごみの中から、生ごみと容器包装プラスチックを分別し、徹底した分別をすることをさせていただきました。

こうした中で、持続可能な循環型社会の構築を目指し、現在の方式を選択し、この処理方式については、選択すべき必要な方式であったと考えているところです。

しかしながら、この次の表に示しております、また、これまでの委員会の中でも報告させていただきましたが、埋立ての数量が、計画と現実の処理数より大きな乖離がありまして、15年間で使用するとしていた最終処分場が、このままでは、あと四、五年で満杯となる事態となっております。

ここに改めて、このような状況となったように検証するとともに、実態に即した数量を精査し、これらの反省点を踏まえた上で、次期計画を策定する必要があると考えております。

検証した結果につきましては、これまでも委員会で説明したとおり、大きな乖離が出ているということで、その乖離の要因を4点上げております。

埋立ごみとして出された、ごみの調査結果では、約3分の1が資源化できるごみであったが、分別の理解、促進に向けた啓発や協力を求める努力が、一層必要であったこと。

二つ目としまして、生ごみについては、衣類など、不適正な異物が混入し、破袋処理の際に機械に不具合が生じ、堆肥化処理できず、生ごみの15%

計画していた残渣数量より多くの量が埋立処理となっていること。

三つ目としまして、ごみの搬入方法や施設の操作方法で、埋立量を減量できるものと考えており、早急な施設改良に至らなかったこと。

四つ目としまして、もっと踏み込んだごみの排出状況についての調査、検証が必要だったこと。

これらの要因により、最終処分場の埋立量が、計画に比して多くなっております。

検証の3ページ目になりますが、その次の項目で、埋立処理量の減量に向けてということで、施設稼働後の埋立処理量減量に向けた事業につきまして、2点上げております。

一つ目は、令和3年度から生ごみ堆肥化施設を改良し、施設を増強して、堆肥化の処理が搬入量に対して3割から7割まで改善をしております。

2年度と3年度を比べますと、生ごみの残渣は711トン減少しています。

そして、二つ目ですが、令和4年度より、ごみ分別ガイドブックの全戸配布と、生ごみコンポスト、そして、生ごみ電動処理機に対する補助事業を再開しております。

今後についてでございますが、こちらに記載のとおり、現在はコロナ禍に伴うマスクごみや衛生ごみの処理が必要となっている。

また、人口が減少する時代であっても、持ち家の処理や、住み替えに伴う粗大ごみの増加などが予測されること。

そして、罹災など不測な事態に伴って発生するごみの処理についても考えていく必要があると考えています。

埋立ごみにつきましては、分別の適正を図るため、より分別の理解度を高める必要があるものと考えています。

そして、堆肥化処理の阻害の要因になっている、こちらに記載の4点、紙系のもの、木質系のもの、貝殻、草、枝木類の収集、そして処理方法について検討することが必要と考えております。

また、さらなるリサイクルの可能性についても検討するというところで、その中では、製品プラスチックの分別につきましては、埋立処理量減量化の効果があるため、プラスチック資源循環法に基づいた処理方法を早い段階で導入することについて検討します。

最終処分場の残余量の把握につきましては、残余

測量結果とあわせて、搬入重量と覆土量を定期的に集計し、残余量の推計結果をお示しすることが必要と考えております。

また、最終処分場の軽微な変更については、技術的な検討、覆土の在り方、運用の方法も併せて検討を進めるとともに、北海道と協議しながら進めています。

今後は、お示ししたこれらの検証内容を踏まえて、最終処分場の延命と、次期廃棄物処理計画策定に向けた取組を進めてまいります。

以上で説明を終わります。

○松浦敏司委員長 それでは質疑に入ります。

質疑ございませんか。

ありませんか。

○石垣直樹委員 資料を拝見させていただきました。

検証、様々されておりますが、今回の資料の中でついていた、生ごみ堆肥化施設の現状の資料をざっと見させていただくと、そもそも、当市で使っている生ごみの破袋機が、ほたての貝殻を壊すことができないと。

一次産業の中で、ほたてを大量につくっている網走にとって、家庭での消費もなかなか多いということを見ると、そもそもこの破袋機の能力も低かったのではないのかなと。

例えば、今の破袋機の前に、もう1個、大まかに砕く破袋機とかがあって、こういった貝殻とかを崩して、現状の破袋機に入れるとか、そういうことも考えられたのかなあと思います。

本当に今の破袋機の能力が、この堆肥化を行う上で、地域性を考えたときに合っていたのかどうかというのが疑問に思うのですけれども、原課としては、当初の予定からどうだったのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 こちらの施設につきましては、最初から破袋ということで、設計をしておりますが、大量に貝殻だけのものとか、それだけのものが処理できないということは、私どもとして想定をしておらず、現在に至っているところは、そこは反省すべきところと考えています。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○金兵智則委員 すごく資料が膨大なこともあり、ちょっと説明もあっさり終わってしまったところもあるので、多分、順序良くいったほうがいいのかと思いますけれども、まず懇話会の進捗状況についてなのですから、市民説明会での意見、それと

反省と検証の話、それと広域での今後の進め方の話をしたという、ざっくりとした説明だったのですけれども、まず、市民説明会で出た意見について、どのように説明をして、懇話会の中ではどのような議論があったのか、簡単に説明してもらえますか。

○近藤賢生活環境課長 昨日の懇話会の中で、市民説明会で出た意見について、主な意見ということで、記載のものを説明したのですが、委員の方からはですね、全ての意見を出していただきたいということがありましたので、それにつきましては、今後、議事録を委員の方に送付しますので、そのときに市民説明会で出た主な意見ではなく、全ての意見をまとめたものを添付して送ります。

また、その内容につきましては、広く皆さんに知っていただくため、ホームページで公開することも考えております。

○金兵智則委員 それでは市民説明会で出た意見については、懇話会に示したけれども、全ての意見について見たいということがあるので、それを委員の方にお渡しして、また9月の第4回なのかな……での懇話会で議論があると思われるといったような感じで、理解していいということですね。

○近藤賢生活環境課長 その内容になります。

○金兵智則委員 ちなみにその市民説明会をやってみて、原課としてはどのように感じたのか、今後どうしていかなければいけないという思いに至ったのか、ちょっと頂いても大丈夫ですか。

○近藤賢生活環境課長 市民説明会では7か所開催して、148名の方に御参加いただきました。

中では、どうして埋立処分場が早く埋まっているのだと、ここで議論しているような、同じような意見が出されて説明をしたところでした。

また、特に多かったのは、分別についてはわかりやすくしていただきたいという御意見が多くありました。

また、中間処理が必要だという説明をしていたのですが、市民の方の中には、将来的には燃やす施設というのが必要と考えるという意見もありました。

そういったいろいろな意見がありましたので、その内容については、改めて公表をさせていただきたいと考えています。

○金兵智則委員 そうしたら、主な、一番多かったのは、分別がわかりづらいのでわかりやすくしてほしいという意見が多かったということで、反省と検証にもちょっと、今後のことについて書いてあった

のかなということもわかりました。

それで、反省と検証については、懇話会のほうでは、どんな感じだったのか、お伺いしたいと思います。

○近藤賢生活環境課長 反省と検証につきましては、以前の、前回の懇話会の中でも説明したところと重複するところが多くあったのですが、最後の今後についての、堆肥化処理の阻害の要因、これについて、ティッシュペーパーなど紙系のもの、割り箸、爪ようじといった木質系のものというのをささせていただいたのですが、こういったものの分別、収集をして、堆肥化処理の阻害要因を取り除くことは、早急に始めていただきたいという御意見が特に多くありました。

○金兵智則委員 この反省と検証について意見があったということで、懇話会としては、市民説明会の全部の意見を含めて、また、9月の懇話会のほうでも、さらに議論を行っていくといったような理解でいいのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 9月につきましては、そういった、前回のことも、7月に行った、昨日行った懇話会のことも含め、廃棄物処理の課題について確認をしていくことで進めてまいります。

○金兵智則委員 そして、広域での協議ですか……について進めていくというお話をされたということ、さっき御説明いただいたと思いますけれども、それはどうだったのか、お伺いしたいと思います。

○近藤賢生活環境課長 広域で進めていくという説明はさせていただきましたが、その辺りについての昨日の会議の中では、その辺りの議題というのは特に用意していなかったもので、その辺りの意見は特に頂いておりません。

○金兵智則委員 ちょっと改めてもう1回確認したいのですが、懇話会に諮問している2点と、もう1回説明してもらってもいいですか。

○近藤賢生活環境課長 懇話会への諮問、廃棄物処理場の今後の在り方について、そしてごみ処理方式の今後の在り方についての2点となっております。

○金兵智則委員 ごみ処理方式の中に、広域化というのは含まれるのですか。含まれないのですか。

○近藤賢生活環境課長 広域化も入ります。

○金兵智則委員 そうしたら、懇話会は懇話会でもそれも含めて議論をしつつ、広域化は広域化で、別途並行して進めていくということなのですね。

懇話会がどういう結論を出すのか、次が9月で、

たしか6回ぐらい懇話会はやると言っていたのですけれども、それって、何かどこかでそごが出たりしないのかなと思うのですけれども、その辺はどうなのですかね。

○近藤賢生活環境課長 広域につきましては、広域の事業内容については、今後進めていく必要がありますので、その中で、広域の内容ですとか、そういった調査を含めた中で、その調査結果を示しながら、併せて検討していく必要があると考えております。

○金兵智則委員 予算も通っていますので広域で進めていくことは、それは進めていくのだと思うのですけれども、懇話会で広域がノーということは、多分ないとは思っているのですけれども、広域は進めていきます、そこに懇話会には情報提供しながら、今後のやり方を、意見を頂くという形なのですか。

なんかちょっと、僕では余り理解ができなかったのですけれども、そういうことなのですかね。もう少しわかりやすく説明していただいてもいいですか。

○近藤賢生活環境課長 懇話会の中での議論も、広域での検討についても同時に進めていくということで考えております。

○金兵智則委員 同時に進めていく、状況がそう、同時に進んでいくのだろうというのはわかるのですけれども、何かそこに、何と言えいいのでしょうか……関連性と言えいいのでしょうか、懇話会に諮問をしている内容を、こっちは進めていくということですよ。

そこが含まれているということなのですから、何かどうにも腑に落ちない部分が多いのですけれども、ちょっとわかりやすく説明してもらえませんか。

申し訳ないです。

○近藤賢生活環境課長 広域の中で様々な調査、計画等があるのですが、その中では、網走市としては懇話会に出ている意見、市民説明会に出ている意見を含めて、検討していくとともに、その広域での検討している内容については、懇話会の中でも進捗状況を示して、併せて検討していくことを考えております。

○金兵智則委員 並行して走っていく中で、こっからの意見を吸い上げつつ、広域化のほうの意見をまた懇話会に下ろしつつ、意見のやり取りをしながら進めていくのですよというふうに理解できなくも

ないですけれども、いま一つ、ちょっとわかりづら
いなという部分があるなというふうに思います。

それと、検証と反省なのですけれども、これで多
分、市側としては一つの区切りというか、段落と言
えばいいのかをつけて、新たな今後に向けての議論
の材料となるものを、多分つくったのだなと思いま
すけれども、ざっくり言えば、さっき石垣委員に答
弁したような内容が書かれていて、もっと細かいも
のが出てきてもよかったのではないかなと思うので
すけれども、今まで議論してきた中身をここに載せ
てくれているのかなと理解するところもあるのです
けれども、もっとより細かくあってもよかったので
はないかな。今せっかく破砕機の処理が足りなかつ
たのではないかと、それも反省ですと言っているに
も関わらずここにはなかったと。

もっと細かく書いてくれれば、もっとわかりやす
かったのになというふうに思うのですが、いかがで
すか。

○松浦敏司委員長 休憩しますか。

○武田浩一市民環境部長 御質問のお話ですけれど
も、総体につきましては、まず、こういう形でまと
めさせていただいております。

また、付随、これからいろんな形で説明をさせて
いただく場面もございますけれども、その中で、意
見等々いろいろ出た場合については、それについて
も説明をさせていただくというような形にしてい
きたいと考えております。

○金兵智則委員 ごめんなさい、ちょっとよくわか
らなかつたのですけれども、今後いろんな場面でこ
れを出していった中で、意見などをもらった中で、
説明をしていくと。ここには書いていないこと、書
いてなくても、ちゃんと持っているものはあるのだ
よという意味だったのですかね。

○武田浩一市民環境部長 具体的な部分につきまし
ては、その場面でも説明をさせていただきたいと考
えております。

○金兵智則委員 ほかの方々にはわかりません
けれども、私が求めていたのはもっと細かいものが、そ
れこそ具体的な部分が多分羅列されるようなものな
のかなと思っていたのですけれども、大まかなもの
をつかって、具体的なことは個別に答えますよとい
う、答えられるのだったら載せてもよかったのにな
と思うのですけれども、多分あるのですよね、そう
したら具体的なものが、それを何か1枚、何かここ
に追加したりはしないのですか。

市でつくったものですので、これをああせい、こ
うせいというのはちょっとあれかもしれないので
すけれども、せっかく具体的なものもいろんな議論を
今までできてきていて、あった中で、ちゃんと書き記
しておくというのは必要なのかなというふうに僕自
身は思うのですけれども、どうなのですかね。

つくり直せとは言わないけれどもね。

○松浦敏司委員長 暫時休憩します。

午前10時25分休憩

午前10時26分再開

○松浦敏司委員長 それでは再開いたします。

金兵委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 すみません、懇話会資料に
付けています別紙1にあります、生ごみ堆肥化施設
の現状といった資料がありますが、具体的な内容に
つきましては、こういった資料の形式でまとめて説
明会で示す、またホームページ等で公表していく形
で、具体的な中身については示したいと考えており
ます。

また、その他、3分の1、資源物が入っている
という結果もありますが、そういうごみ質調査の結果
も示しながら、皆さんに協力を求めていく資料を、
もうちょっとわかりやすく提示して、説明会でも使
用するなどして進めていきたいと考えております。

○金兵智則委員 それは、もちろんなのだと思う
のです。

今後、この検証と反省を踏まえて、今後につい
ては、最終処分場の延命と次期廃棄物処理計画の策定
に向けた取組を進めていく基になるものですよ。

それが、今で言うと3ページで書かれておりま
す。

説明する時は、個別具体的なこの写真に入っ
ているような資料を使いながらやっていきますよとい
うことなのですけれども、今後ずっとね、担当の方も
ずっと一緒の方かどうかもわからない中で、反省と
検証を見たときには、この3枚なのですよ。

そうであるならば、ちゃんと文字として残して
おくべきだったのではないのですかという、市民への
説明するにはもちろんわかりやすい、具体的な資
料を説明してやってもらいたいのですけれども、こ
の資料でいけば、生ごみの堆肥化施設の現状とい
う資料ですよ。

これとこれを見たときにちゃんとつながるよ
うな形で、ちゃんとまとめておくべきなのではないの
ですかという質問だったのですけれども、言っている

ことがわかりづらいですかね。

結局は、反省と検証というところの3枚のページなのですよ。

これはこれで完成なのかもしれないですけども、例えば反省と検証の具体例として、破袋機の能力が余りにも低かったというような一文があるのかどうかは、さっき反省する点ですと言っていましたので、多分具体例はちゃんとこの反省と検証につながるようなものを残して、それがあから、その辺の実績として例えば破袋機でいけば貝殻はできない、割り箸も何本までだったらいいけれども、もっと束になったらできなかった、だからもっと能力の高いものを入れなければいけなかったというのが、今後につながっていくのだと思うのですけれども、この反省と検証を見たときにそういうことが出てきませんよねと。

それを、もっとわかりやすくちゃんと残しておくべきなのではないのですかという質問でした。

○近藤賢生活環境課長 御指摘のとおり、追加でまとめたものを用意させていただきます。

○金兵智則委員 これを踏まえて、今後の話にしていかなければいけないので、誰がいつどのような形で見ても、ここが悪かった点、これを生かして次に進まなければいけないのだというものを、わかるものを、本当は1回でね、出してもらいたかったですけれども、それを踏まえて反省と検証の資料としてまとめていただきたいというふう、お願いをしたいというふうに思います。

取りあえず。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○石垣直樹委員 金兵委員からもお話がありました。ちょっと検証がまだまだ薄いのかなというふうに個人的には感じます。ほかの議員はどう思っているかわかりませんが。

そもそもこの計画量、年間埋立量4,468トンという数字を出した、これがずれていたから現状に至っているわけで、もしこれが8,000トンとかになれば、全く今の状況には陥っていなかった。

なぜ、この4,468トンという数字が出たのか、どうやって積み上げていったのか、その積み上げが間違っていたから、今に至っているわけで、その間違いを二度と踏まないためにも、積算といいますか、積み上げに使った根拠が間違っていたというところを改めて確認してですね、そういった検証も必要で

はないのかと思うのですが、いかがでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 計画量につきましては、資源化できるものを100%分別するという内容で計画を策定しておりまして、こちらに記載してあるとおり、結果として計画どおり進んでいないということでございます。

この埋立量につきましては、生ごみ、そして資源物を100%分別するというところで算定しておりますので、そこで大きな乖離が発生している状況です。

○石垣直樹委員 例えば、もしこの分別100%が50%の分別だったときに、年間埋立量がどれくらいになるのか、恐らくエクセルとかそういうものを使って、数を入れていけばできるのかなと思うのですけれども、そういった検証とかはされましたか。

もし、これが80%だとしたら、この計画量は幾らになっているのかなとかという、原課で考えたり、検証したりはしましたか。

○近藤賢生活環境課長 計画策定時は100%分別ということで、この4,468トン算定しております。

その他に、やるとすれば60%とか、80%分別というのものもあるのですが、そうしていくと年間の埋立量は、それに比例して多くなっていく状況にはなると考えます。

○石垣直樹委員 では、その60%、80%と結果を踏まえて、次の計画では、その数字を生かして策定することができるということですか。

○近藤賢生活環境課長 廃棄物処理施設なので、市単独でつくとすれば、その実態に即したそのまま計画をつくることはできると思いますが、国の交付金の計画などを利用する場合は、そちらに即した内容で、計画量を出していくことが必要になってくると考えております。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

○松浦敏司委員長 ちょっと待ってね。

いいですか。

○近藤賢生活環境課長 市としましては、市の計画として埋立量を算定することが必要でありまして、次の処理計画をつくる際には、改めて計画量を算定していく流れになります。

○石垣直樹委員 これから広域とか、中間処理が変わるかもしれないような状況の中で、今回のこの数値というのが、非常に実数として必要になってくる部分があると思いますので、国の補助金をもらうために100%分別するような前回の間違いは踏まない

ように、しっかりと計画を立てていていただきたいと思います。

○松浦敏司委員長 ほか、ございませんか。

○澤谷淳子委員 今回の市民説明会にしても、懇話会の方たちの御意見にしても、緊急であるということをご皆さんが広く知るという意味では、この説明会も十分その役割を果たしました。

逆にそれであるからこそ、皆さん実は、もう次、こんなに大変だったのだから、では次どうしようということ、皆さんのほうが本当に考えてくれていて、この懇話会にしてもそうだったのですけれども、すごくたくさん、実際に埋立処分場を満杯にしないためには、今すぐにでもティッシュと割り箸は別にするとか、貝殻ですとか季節的な樹木の伐採とか草とかですね、そういうのは透明な袋に入れて出してもいいように、その時期だけキャンペーンみたいにするとか、本当に具体的に御意見を出されました。

そこで、これはあくまでも広域化とかそういうことも考えながらやっていくことなのですから、その部分だけでも例えば少し前倒しにして、ティッシュなどミックスペーパーのことも、あの方はシテイ環境さんでしたかね、言ってらっしゃったのですけれども、少しその部分で、前倒しで実際にやっというふうなようなお考えはないのでしょうか。

広域化の話とかは、また、同時並行でやっていくのですけれども、具体的な、皆さんこの緊急だということがもうわかりましたので、次にどうしていくという答えがないところに、皆さんちょっとストレスがあるのではないかなと思ったのですけれども、次にこうしていくという答えがはっきりいつまでに言いますとか、逆にちょっと、秋からそこだけちょっとやってみますとかというふうなお考えはありますか。

○近藤賢生活環境課長 昨日の懇話会の中でも、早急にできるものは進めたいという意見が出ておりますので、ちょっと私どもとしても、その分別の……どのような形でティッシュを集めるのか、どのような形で割り箸を集めるのか、先ほど検証の最後にも書いていますが、そういったものの分別収集を考えていくということがありますので、その具体例を何例か示した中で、懇話会の中でも示して、懇話会の方の意見を伺いながら、より良い分別方法、次の9月1日の懇話会では、望ましい分別方式という議題もございまして、そういった中で考

えていきたいとしております。

○澤谷淳子委員 それでしたら、皆さん望んでいることだと思いますので、ぜひ9月1日の懇話会では、一定の何かこういうふうにしたいということ、ぜひ答えられるようにしていただきたいと思

います。

私からは以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○近藤憲治委員 それでは私からも、まずこの検証と反省なる文章についてお伺いをしますが、ちょっとまず一点ですね、タイトルについて確認をさせていただきたいのですが、これ網走市のホームページに6月30日に公開をされています。

そのホームページ上のタイトルは、「市としての一般廃棄物処理の反省と検証について」というタイトルになっていますが、本文は「網走市一般廃棄物処理について」しか書いてないのです。

この文章の正式なタイトルはどちらなのでしょう

か。

○近藤賢生活環境課長 この文書のタイトルとしましては、「網走市一般廃棄物処理について」ということとなります。

○近藤憲治委員 では、このホームページについているのは何ですか。何と云えばいいのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 ホームページの見出しのところでは、反省、検証という言葉を使わせていただいているところです。

○近藤憲治委員 市民の皆さんに対しての文章なので、中身がより伝わりやすいタイトルのほうがいいので、僕はホームページに載っているタイトルのほうが、より実態に近いものだと思うのですけれども、なぜか書面のほうのタイトルはよくわからないタイトルにしてしまっていて、しかも今の答弁だと、そっちのほうの方が正規だということなのですよ

ね。

何か違和感を感じるのですけれども、いかがですか。

○近藤賢生活環境課長 ホームページの見出しの中では、反省、検証という言葉を使っておりますが、この文章自体は、ここに記載のとおりタイトルという形となっております。

○近藤憲治委員 この文章は、網走市一般廃棄物の処理に関しての反省と検証が書かれた文章なのですよ

ね。

そういうタイトルでつくるべきだったと、まず思

います。

あわせて、金兵委員や石垣委員から、やはり検証の部分の掘り下げが足りないという趣旨のお話がありました。私もそう思います。検証と言っていますけれども、ほぼ何の検証にもなっていないというのが、私の読んだ率直な感想です。

一つお伺いしますが、この検証と反省、特に何が駄目だったのかという検証については、もうこれで完了なのでしょう。

先ほど金兵委員のお話の中では、まだまだ資料が付け足されるということなので、完了ではないと受け止めているわけなのですが、いかがですか。

○近藤賢生活環境課長 この内容について、説明が不足している分については、改めて追加してまいります。

○近藤憲治委員 私が伺っているのは、検証という作業は完了したのですかということをお伺いしています。

○近藤賢生活環境課長 6月28日の時点では、一旦完了という形でまとめていますが、不足する分については追加をさせていただきます。

○近藤憲治委員 つまり完了していないということですか。

○近藤賢生活環境課長 この6月28日の時点では完了という中身でございます。

○近藤憲治委員 では、7月6日の今の段階で出されているこれはどういう状態なのですか。

○近藤賢生活環境課長 先ほど、金兵委員の質問に答えたとおり、説明として不足している部分については、わかりやすい資料をつけ加えていくということを考えています。

○近藤憲治委員 全然、何か答弁が変なのですか。

○松浦敏司委員長 休憩いたします。

午前10時44分休憩

午前10時49分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 この網走市一般廃棄物処理についてにつきましては、この6月28日の時点で完了はしております。ただ、こういった委員会ですとか、懇話会、市民説明会、まちづくり懇談会の中でも、指摘、追加事項は出てくるものがたくさんあると思いますので、その辺りは具体的部分を示した中で、追加してまたお示ししていくという形で継続し

てまいりたいと考えています。

○近藤憲治委員 では、検証の作業は、まだ継続されているという認識でよろしいですか。

○近藤賢生活環境課長 指摘された事項については、具体的な説明を示していくことで続けていきます。

○松浦敏司委員長 休憩します。

午前10時50分休憩

午前10時51分再開

○松浦敏司委員長 再開します。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 指摘された事項、追加が必要な事項については継続して示していきます。

これにつきましては、市側として、足りていない点もあることも考えられますので、そういった中身で継続をしてまいります。

○近藤憲治委員 検証は継続しているということでもよろしかったのですかという最終の確認と、ずっと検証しているわけにいきませんから、では最終的にはいつまとめますかということも、併せてお伺いしたいと思います。

○近藤賢生活環境課長 この後、まちづくり懇談会と、9月の懇話会もありますので、その中で追加、指摘された部分も含めて、改めて9月1日以降に示させていただきたいと考えています。

○近藤憲治委員 今回の質疑の前段で、検証は続いているという認識でよろしいですねという部分も、最終の確認をさせていただいていますが、続いているということ。

○近藤賢生活環境課長 意見が出てくることについては、継続して追加をしてまいります。

○近藤憲治委員 先ほどから意見を言われればという、多分それは先ほどの金兵委員の質疑に対しての答弁を基にして言っているのだと思うのですけれども、今の答弁をずっと繰り返し聞いているとですね、言われたら載せません、自分たちでは載せません、考えませんというニュアンスにも聞こえるのですけれども、網走市としても、もっと検証を掘り下げたほうがいいと思いますよ。

だって、石垣委員が読んでもこれは足りないという御指摘がさっき出ていたわけですよ。

私が読んでも、もともとの計画自体が、そもそもおかしいという指摘も度々させていただいていますけれども、計画と実態がずれた要因として、もっと踏み込んだごみの排出状況についての調査や検証が

必要だったという、検証が必要だったという検証って見たことないのですよね。

なぜ、それができなかつたのかを掘り下げるのが検証ですよ。

違いますか。

○松浦敏司委員長 休憩します。

午前10時55分休憩

午前10時57分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 今、提出しました、6月28日付けの文書で一旦検証はしておりますが、この後も御意見、そして指摘事項がありますので、そこは追加することが必要になりますので、検証は続けてまいります。

○近藤憲治委員 はい、続いている。

あわせて、先ほどもお話したように、言われたことを振り返るだけではなくて、ここに載っていること、これは当然今まで、網走市として考えたことだと思いますが、全然、深みがないというふうに感じています。

先ほども言った、その調査や検証が足りなかつた、できなかつた、それで終わりなのではなくて、なぜできなかつたのかを知りたいし、それを残すからこそ、次、その間違いを犯さないで済むのですよ。

それは、自主的にやっていくというお考えはありますか。

この、一応はつくりましたけれども、まだ検証は終わっていないということですから、さらにここに書いたことを掘り下げていくという意思はありますかと伺っています。

○近藤賢生活環境課長 今回、出したものの中身も含めて、掘り下げる検証も進めてまいります。

○近藤憲治委員 であれば、ホームページにも、もうあたかも完成版のように載っていますけれども、これはまだ仮の状態であって、これがたたき台になって、さらにまた深い検証が続けられていくということが伝わるような伝え方をする必要がありますよね。いかがですか。

○近藤賢生活環境課長 わかりづらい部分についてはわかりやすく、具体量をお示して説明する内容としていきたいと思っております。

○近藤憲治委員 わかりづらいではなくて、ホームページに載っているのはあたかも検証が終わったか

のように載っていますから、これはまだ仮の状態ですよ。

要は、検証はまだ続いていくわけですから、まだ続きますので、様々な場で市民の皆さんの意見を聴取しながら、完成版に向けてつくっていくということ、ちゃんと伝えなければならないのではないですかということ伺っていますが、いかがですか。

○松浦敏司委員長 休憩します。

午前11時01分休憩

午後1時00分再開

○松浦敏司委員長 それでは、午後の委員会を再開いたします。

午前中、一般廃棄物処理について質疑を行っていた中で、答弁調整で休憩をいたしました。昼食休憩と重なったために、引き続き昼食休憩といたしました。

今から再開をするわけですが、まず、近藤委員の質疑に対する答弁からお願いします。

○武田浩一市民環境部長 午前中に引き続きの部分について、お答えさせていただきます。

総括的に、6月28日にお示しをさせていただきました。

今後、必要なものや、懇話会、まちづくり住民懇談会の意見など、具体的に追加をしてみたいと考えております。

○近藤憲治委員 今回の答弁でいいですと、改めての確認ですが、検証作業は続いている、これは続いているという答弁がありました。

これから様々な場面で、この文章を説明して、出た意見は盛り込んでいく。

要は、最終的な検証はまだ完成してなくて、完成させるのは、前段の答弁でいうと、まちづくり懇談会等を経た上で秋ぐらいという認識でよろしかったですか。

それとも、さらに話を聞いていくと、もっと深めなければならない部分があれば、それらの時間をかけてという考え方もあるということなのでしょうか。

○武田浩一市民環境部長 今後、先ほど申しましたけれども、必要な部分ですとか、懇話会、まちづくり住民懇談会が、7月、8月、懇話会については9月1日に行われる予定となっておりますので、その後ということで、追加をするということで予定しております。

○近藤憲治委員 今回の答弁でいくと、これからまち

づくり懇談会でも示したりとかして、そこで出てきた意見も盛り込んで、最終的な検証と反省なるものをつくるのだということでもいいですね。

ただそれが、どこまで終わるかというのは現段階では見えていないということでもいいのですか。

○武田浩一市民環境部長 先ほども御説明をさせていただきましたけれども、総括的な部分で6月28日にお示ししたというのは、それは完了といたしますか、そういう形でお示しさせていただいたものです。

この後、必要なものとかが懇話会でいろいろ出てきますので、それにつきまして、その後もですね、必要なものとかが、そういうものについては引き続き追加をするというような形になってございます。

○近藤憲治委員 それ、いつまで、どれくらいの時間軸で考えていくのかというのが、御答弁いただけていないのですよね。

まちづくり懇談会でお示しをしているような意見も、それはわかりました。

もらったらでき上がるのか、それとも……なんで聞いているかというところで、先ほど来、ずっと議論させていただいていますが、総括的にまとめていただいて、文言自体が、中身自体が不十分ですねという感覚で私は見えています、文章で。

今の話だと、言われたものはつけ加えますが、必要に応じてね。

しかし、市として、この文言が本当にそうだったのかなという掘り下げはもうやらないということですか。

だって、この先つけ加えていくわけですよね、言われたことを。そうしたら、ここに書いてある文言がそごを来す可能性だってあるわけですよ。

そのときはやはり自らが書いた中身であっても、そこはきちんと修正をしていく必要だってあると思うのですけれども、この文言は直さない、けれどもつけ加える、後で読んでみたら、これ結局どっちが論点なのかかわからないような検証と反省が最後できてしまうのではないですか、その考え方でやると。

いかかでしょうか。

○武田浩一市民環境部長 懇話会において、答申をもらうというのがございます。

それが、まずは一つの区切りということになるかと考えております。

○近藤憲治委員 ちょっと、今の答弁ではよくわからないのですけれども、これについての答申をもらうのですか、この検証と反省についての……それは違いますよね。

何で懇話会の答申がそこで答弁に出てくるのでしょうか。

○武田浩一市民環境部長 懇話会の中では、今後の在り方という形、議論していただいて、答申をいただくという形になっておりますので、その点については踏まえていかなければいけないというふうに考えているということでございます。

○近藤憲治委員 懇話会は懇話会で、今後のごみ処理の在り方を考えてくださいという諮問がなされて、今議論をしていただいていると思うのですけれども、今回出された反省と検証の文章というのは、総括的には完了して出てきたものなのですよね。

しかし、それは完了ではなくて、まだ検証が続いているので、これから様々な場面で説明をし、出てきたものについては必要に応じて追加をしていく、検証は続いている、それは最終的にどのタイミングで、どういうふうにとまとめるのですかというのは、まだ見えていないということですね。

だって懇話会は、検証と反省だけをやってくれというものではないですよね。

○松浦敏司委員長 休憩します。

午後1時07分休憩

午後1時08分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○武田浩一市民環境部長 今後、必要なものについては随時行ってまいります。

○近藤憲治委員 これは中身がどのくらいの精度ででき上がっていくかということに、密接に関わってまいりますので、引き続きですね、議論をさせていただく必要があると思います。

過去の委員会です、6月3日、文教民生委員会で、この反省と検証をつくるに当たって、副市長と議論をさせていただきましたが、議事録を見ますとですね、検証と反省を画面化していくに当たって、それは理事者側で一面的につくって、それをいどうぞと議会に見せられるのではなく、やはり我々なり、我々というのは議会や委員会なので、完成版の前にですね、委員会、議会にお示しをいただきたいと思うのですけれども、そこいか

がですかと、副市長に問わせていただきました。

その際に、副市長からそのようにしたいと思いきすという御答弁を頂いておりますので、この答弁から考えますと、現在出されている反省と検証というのは、総括的には完了していると先ほど答弁していましたが、完成版の前にあると、完成版の前の状態だというふうに受け止めさせていただきたいと思いきすけれども、そういう認識でいいですね。

○後藤利博副市長 前回、委員会におきましてはそのようなお話をさせていただいたところでありますが、6月28日にまとめて整理をして、お示しをしてみましたこの内容、これが議会側と、例えば付け合わせが必要なものであったかどうかという部分について、いかがなものかというような考えもございました。

それで、市としましては、市で総括的にまとめたものは、今回、お示しをさせていただいたところでございますが、午前中の議論、これまでの議論、委員会での議論の中でですね、随時必要なものについては、私どものほうでもお示しをしていくということになりますので、そこは今後も詰めさせていただきたいというふうに考えてございます。

○近藤憲治委員 検証と反省は終わっておらず、まだ続いているということで、今の副市長の答弁でよろしかったでしょうか。

○後藤利博副市長 終わっているという、6月28日にまとめた段階では、私どもは一定のまとめをしたというふうに思っておりますが、現実に本日の委員会でも御指摘がありましたように、具体の部分ですとか、また、これから住民懇談会の中で出てくるものもあれば、それは必要に応じてやっていく部分については、お示しをしていきたいというふうに考えてございます。

○近藤憲治委員 伺っていることにお答えいただきたいのですが、検証と反省は、市としては28日に一旦まとめられたけれども、いろいろ指摘を受けてみると、まだ盛り込まなければならないもの、つけ加えなければならないものがありそうだから、これは続いているのですという認識をお持ちだということですね。

○後藤利博副市長 市がまとめたものについては、市としましては一定の区切りをといますか、一段落……一段落とまでは言いませんけれども、一区切りとしてお示しをしたものでございます。

ただ、先ほども申しましたとおり、御指摘の部分

もございまして、具体のもののお示しをしなければ、市民の皆様にもなかなか理解が得られないというものもございまして、必要に応じてそういうものについては、追加をしていきたいというふうに考えてございます。

○近藤憲治委員 検証と反省は続いているという一言を言うのが一番簡単な説明だと思うのですがけれども、なぜか必要なものはつけ加えるという答弁だけで終わってしまっているの、ちょっと理解に苦しむところです。

午前中の議論では、検証と反省は続いているのだという答弁もしていますが、結局どっちなのでしょう。

○後藤利博副市長 今後必要に応じてお示しをしていかなければという部分については、検証という言い方をすれば、それは継続をしていくということになります。

○石垣直樹委員 先ほどからちょっと議論が平行線なのですがけれども、私としては、この6月28日に示されたものは、これはこれでよしとして、先ほど、役所側の答弁もございまして、これから賜る、懇話会とか、まちづくり懇談会で、これに関する御意見は御意見として賜って、次に生かすと。

これもおっしゃっていることですがけれども、必要であれば、今後、追加していく。

それでいいと思うのですがけれども、委員長いかがでしょうか。

○松浦敏司委員長 この件について、今いろいろ質疑してきました。

全体として、委員会として、この部分で十分納得できるような状況かといえば、そうはなっていないので、この反省と検証の部分については、今後も引き続き所管事務調査を行っていくというふうにして、今日のところは、この部分については終了したいというふうに考えていますが、委員の皆さん、そのようにしてよろしいでしょうか。

○澤谷淳子委員 今、委員長から御発言で、そうはなっているように思わないという御発言が、委員長としてあったのですがけれども、委員会全体がそういうふうに思っているわけでもないとは思っているのですがけれども、私も、今、石垣委員がおっしゃったように、6月28日付けの総括ということで出たものに対して、午前中に金兵委員がおっしゃったことをちゃんと盛り込むということを回答していただいているので、私はそれで結論が出たのではないかなと

思っています。

しかも、必要なものであれば、個別にそういうものがあつたときにはきちんとお答えして添付するというをおっしゃっているの、このことについてはこれでいいと思っているのです。

なので、委員長がまだまだ不足というふうにおっしゃったのには、ちょっと同意できないと思っています。

○松浦敏司委員長 それは、委員会全体としてというよりも、一部の委員がまだ、この部分についてもっと検証すべきだという意見もありますので、そういう点では、引き続き調査をする必要があるという意味であります。

○近藤憲治委員 澤谷委員のおっしゃること、御発言がありましたけれども、午前中の議論の中で、この検証と反省にある文章について、まだ、意見があれば付け足しますという答弁があつたのですよ、市のお意思なのです。答弁したということは、

付け足すということは、でき上がってないということですよ、裏を返せば。

なので、私は、何度も伺っているのは、検証と反省というのはまだ完成してなくて、続いているのですねという話をしたところ、副市長は最終的には続いているといえれば続いているという答弁されたので、そこは継続的にやっていきましょうと、受け止めたところであります。

そこは市の意思が示されたわけですから、続いているということ。

○澤谷淳子委員 では、その部分が明確ではなかったの、このまま、先ほど言っている個別案件などもこれから出てきたら追加するというだけの答弁では、ちょっとやっぱりはっきり続けているのだということをお認めいただきたいということですか。

どうしたいのというのがちょっとわかってないので私も。

○近藤憲治委員 そこは、先ほど前段、副市長の答弁で、検証と反省は続いているという答弁がありましたから、そこははっきり確認できました。

中身については、まだ何も触れていないので、今後、議論させていただきますというところです。

○松浦敏司委員長 澤谷委員にもお伝えしますが、いずれにしても、この反省と検証については、今日、引き続きやっても相当時間がかかるというふうな印象を、私、委員長として持っています。

ですから、今後については、次の委員会の中で継

続してこの問題を審議するのがいいだろうというふうに判断したので、先ほど発言したわけです。

そういう意味で、みんなが意見が出尽くしたというような状況であればよろしいのですが、そうはなっていませんので、引き続き所管事務調査をやっていくというふうに、私なりに判断させていただいたところです。

そういう意味で、先ほどの発言になっておりますので、そういったことでよろしいかどうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、そのようにいたします。

では、この部分については、取りあえずそういうふうにして、では、理事者退席のため暫時休憩いたします。

午後 1 時 17 分休憩

午後 1 時 19 分再開

○松浦敏司委員長 大変失礼いたしました。

先ほどの分については、一般廃棄物処理の反省と検証についてでありましたが、一般廃棄物減量化等推進懇話会の進捗状況と、この部分でまだ質問したいという部分が抜けておりましたので、その分、審議したいと思います。

どなたからでも質疑をお願いいたします。

懇話会の関係です。

○石垣直樹委員 前も自分は言いましたけれども、懇話会はあくまでも、市長の私的な御意見を頂く機関であつて、そこに議会側がどうこう口を出すものではないと思いますので、その件については、僕は何もございません。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○澤谷淳子委員 私も午前中、説明会や懇話会の中で出た意見を取り込むこともできるのではということをおっしゃいましたら、できることはきちんとやっていくとおっしゃってくださいましたので、特にその懇話会のこれについての意見はございません。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○近藤憲治委員 では、私から懇話会の中身について伺わせていただきます。

組織自体は市長の私的諮問機関ですから、その中で御議論いただいていることは、議論をしていただければよいのだろうと思います。

ただ、傍聴させていただくと、私的諮問機関とはいえ、果たしてフェアな運営なのかという疑念を抱かざるを得ない部分が幾つかあるので、そこは指摘をさせていただきたいと思います。

まずは、今回資料が配られていまして、市民説明会といった主な意見についてであります。

1、2、3と出ていますが、これは懇話会の中でも指摘が出ました。

これが本当に全ての意見なのですかということです。

全ての意見ですか。

○近藤賢環境生活課長 これは主な意見ということを出させていただきまして、懇話会の委員の方からも、全ての意見、それに対する回答を示してほしいということでしたので、そこは改めて懇話会のほうに提示することとしております。

○近藤憲治委員 それですね、私も何度か参加をさせていただいて、メモも残しているのですけれども、とても大事な指摘がこの主要な意見には反映されていないと、私は受け止めています。

例えば、6月14日、向陽ヶ丘では、「当初の計画では15年もつと言っていたが、こんな状況だと新しい処分場を造っても、また同じことが繰り返されるのではないか。なぜ、このような状況になったかきちんと説明してほしい」という意見でありますとか、6月16日、潮見の会では、「説明を聞いても疑問が解けない。計画と大きくずれたのだから、もう少し早く対応できなかったのか。また、そもそも分別100%という計画もおかしい」という意見でありますとか、6月17日、駒場、「最終処分場が早く埋まっているというが、説明を聞く限りでは計画がおかしい。早く埋まるのは当然だ。これ以上市民が協力しても無理だ、説明を聞いてもよくわからない。分別100%と言っていたが、そんなモデルはあるのでしょうか。あり得ない数字で、国の交付金を取った、机上の数字でごまかしているようだ、計画に問題がある。ずさんな計画をつくった原因を明らかにしてほしい」というような発言が、様々な会場でも出ています。

なぜ、このような計画がつけられたのかを明らかにしてほしいという意見が複数あったにもかかわらず、この懇話会の資料には載っていません。

それはなぜですか。

○近藤賢環境生活課長 計画をつくった段階の内容については、懇話会の中でも議論していたところですが、主な意見の中で入れていなかったのので、これについては全ての質問と回答について、改めて委員の皆様を示すこととしております。

○近藤憲治委員 なぜ入れなかったのかを伺って

ます。

だって、各会場で出ていますよ、その主旨の指摘は。

○近藤賢環境生活課長 この中にちょっと入れなかったというのは、そこは入れるべきことである内容ですが、その内容については懇話会の中でも説明をしていたということで、ここに載っていなかったということでございます。

○近藤憲治委員 でも、結局は懇話会の委員の中からも、これで全部の意見なのですかという疑念を持たれるわけですよね。

この資料の出し方でよかったのですかね。

いかがですか。

○近藤賢環境生活課長 そこは御意見、御指摘がございましたので、改めて出す形としております。

○近藤憲治委員 では、指摘がなかったら出さなかったということですか。

○近藤賢環境生活課長 この中であった御意見等については、町内会連合会のほうからも、全て後で出してほしいということでありましたので、いずれにしても公表をする予定はしてございました。

○近藤憲治委員 それは、この資料つくる段階から盛り込んでいたほうが、変な疑念を持たれずに済んだのではないかなと思います。

あわせてですね、冒頭の御説明で、広域についての説明をしたというお話がありましたが、私も、この昨晚の懇話会、傍聴していましたが、具体的にどの部分で、どのように説明したのかを、改めてお示しいただけますか。

○近藤賢環境生活課長 冒頭の説明で、今後の懇話会の進め方と、市としての一般廃棄物処理の反省と検証の説明をしたところですが、その最後に、今後は、広域の議論については避けて通れないことから、1市4町での広域処理に向けた協議と調査を進めていきますという説明をさせていただきました。

○近藤憲治委員 この懇話会で配られた資料の議事を見ると、1、市としての一般廃棄物処理の反省と検証について、2、市民説明会で出た主な意見について、3、生ごみ堆肥化施設の現状について、4、ステーション収集、個別収集について、5、その他しか書いていないのですね。

どの部分に入るのですか。

○近藤賢環境生活課長 今後の懇話会の進め方ということで、懇話会の今後の予定というものを、ちょ

つと傍聴の方には配っていなかったのですが、懇話会の委員の方に配りまして、今後、あと、第4回は分別方式ですとか、廃棄物処理の課題について確認をしたり、それから数回懇話会をした後に、最終的には答申を整理するというので説明をした中で、その後ですね、特に資料はまだ出してないのですが、検証と反省を説明した後で、広域についての議論も進めていくということで説明をさせていただきました。

○近藤憲治委員 反省と検証についての最後に、少し言いましたという答弁ですね。

広域に向けての議論を進めていきますと、そんなつけ足しのような説明でよかったのかという疑問があります、一つは。

あと、併せてもう一つなのですが、これは3月の予算委員会の際の、当初予算を可決する際の附帯意見にもありますが、反省と検証をして、そしてそれを市民と共有した上で、広域の協議に臨んでくださいというのが予算を可決する際の賛成に回った多くの会派や、委員の方ですね、意思でありました。

反省と検証というのは、先ほど来、ずっとやり取りをさせていただいています。まだ続いているということでありました。

続いている、さらに懇話会でも、先ほど金兵委員のお話に関わるのですけれども、懇話会でも、網走市のあるべきごみ処理の方式や方向性を考えましようとしているのに、広域に関しては必要ですねという話が進み始める。

そこは、かなりちぐはぐな印象を持つのですけれども、このような進め方でよいという認識をお持ちなのでしょうか。

○近藤賢環境生活課長 広域の議論につきましては、避けて通れない課題であることから、議論を進めていく必要があると考えているところです。

○近藤憲治委員 その手順の是非について伺っているのですよ。

広域についての議論は避けて通れません。

それはもう先ほど来、伺いました。

しかし、まず一つは、反省と検証をちゃんとやって、それを市民と共有してくださいねという意見が議会から上がっている。

懇話会でも、まだ、網走市としての方向性が、きちんとこうですねというのが定まっているわけではない。

でも、広域は避けて通れないと何で言えちゃうの

ですかね。

○近藤賢環境生活課長 懇話会の中で、網走市のごみ処理の方向性を議論するところですが、その中でも、広域で処理していくということも一つの課題として含めていく必要がありますし、網走市の懇話会で、議論した内容を広域の議論に盛り込む、また、広域の1市4町で議論をしていることについて、懇話会のほうに盛り込んで進めていくことも必要と考えています。

○近藤憲治委員 でも、懇話会はそのままでいいのですよね、議論は。

あくまでも、今の最終処分場が危機的状況にあるから、それをいかに延命するのか、すぐ打てる手法は何なのかというところと、では何でそういうふうになってしまったのかという検証、これを今懇話会でやってきたというふうに私は見えていますよ。

まず、懇話会の中で、では広域だねなんていう話には全然なっていないのですよね、周りで見ている分には。

なおかつ、予算を通す際にも、反省と検証をしてください、その上で、広域の協議ですよという手順をお示ししたのですが、検証と反省はまだやっているという最中で、でも、広域にはいきますというのは、ちょっと手順としてどうなのでしょう。

○近藤賢環境生活課長 網走市のごみ処理の在り方についてと、広域の在り方についても、同時並行で進めていくべきものと考えております。

[「いいですか」と呼ぶ者あり]

○松浦敏司委員長 澤谷委員、まだ近藤委員の質疑が続いておりますので。

○近藤憲治委員 今の答弁でいうと、懇話会で結論が出てなくてもいいし、附帯意見がついたけれども、反省と検証終わってなくてもいいし、広域の話をやっしまえという考えなのですね。

○武田浩一市民環境部長 先ほど、お答えさせていただいておりますけれども、総括的に、6月28日に反省と検証についてお示しをさせていただいたところでございます。

今後、必要なものなどについては、具体的に追加をさせていただくということで、答弁をさせていただいているところです。

ごみ処理に関しましては、先ほど、課長も答えておりますけれども、広域による議論、検討は避けて通れないという考えでありますので、最終処分場の延命化、次期廃棄物処理場の在り方、中間処理の方

式、広域化の議論、検討も同時並行的に進めてまい
る必要があるというふうに考えているところでござ
います。

○近藤憲治委員 そういう考えであるというのはわ
かるのですけれども……わかるというか、言いたい
というのは聞いているのですが、結局、手順はこう
やってほしいのです。

検証と反省を踏まえた上でやってください、広域
化の協議はですとか、懇話会で方向性が示された上
でとか、その手順が必要だと私は思っているのです
けれども、その手順は必要ないのだということなの
ですか。

広域の議論は避けて通れないと何度も聞いていま
すけれども、そう言うのであれば、きちんとその手
順を踏んでくればよかったのではないのでしょうか。

検証と反省を真摯にやる、市民の皆さんと共有す
る、懇話会も早いうちから動かして、きちんと広域
の必要性まで、委員の皆さんの意識が醸成されるま
で議論を深める。そういう手順を踏まずに、広域の
議論は避けて通れませんというのはちょっと乱暴で
はないのでしょうか。

そこについての意識を伺っています。

○松浦敏司委員長 暫時休憩します。

午後 1 時 38 分休憩

午後 1 時 40 分再開

○松浦敏司委員長 再開します。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○武田浩一市民環境部長 現在、懇話会等で議論を
しております。

それと併せまして、検証と反省につきましても、
先ほど申しましたけれども、必要な部分というのは
追加をさせていただくということで、続けていくと
いうことでございますので、その辺については連動
しているということであると考えておりますので、
その辺も含めて、同時並行的に進めてまいりたいと
いうことでございます。

○近藤憲治委員 それは連動というのは、反省と検
証と懇話会と、広域化の協議が連動という意味です
か。

○武田浩一市民環境部長 広域も含めますけれど
も、網走市のごみ処理の在り方についてということ
でございます

○近藤憲治委員 今の答弁を聞くと、では考え方は
同じなのかなという錯覚をするのですけれども、反
省と検証をする、懇話会で一定の方向が示される、

その上で、広域のテーブルで議論をしていくという
手順は踏まえるという答弁ですか。

○武田浩一市民環境部長 同時並行的に進めていく
ということでございます。

○近藤憲治委員 その同時並行だとそごが生じます
よというのが、先ほど金兵委員からも示されている
懸念だと思います。

反省と検証もしながら、懇話会でも議論をしなが
ら、でも、そこがもう実は広域化ですよねみたい
な、一定の方向性は持ってしまっている、市として
は。

それは、見ようによっては、懇話会の委員の皆さん
に失礼なのではないかなという気もしますよ。

なので、手順を踏んでくださいねという議論を
様々な場面でさせていただいていますが、多分、市
としておっしゃりたいのはもう時間がありませんと
いうのを、おっしゃりたいのだと思います。

しかし、時間がない状況をつくったのも、最終処
分場の危機的な状況を、ある種ほったらかしてしま
ったことに端を発しているわけですから、そこは時
間がないから、取りあえずこのような形でと、ずる
ずるやるような問題ではないと思います。

連動させるのだ、同時並行なのだ、たびたび答
弁されていますが、皆さんは網走市の職員ですら
から、大事にさせていただきたいのはまず網走市民の思
いですよ。

現状で言えば、懇話会の考え方ですよ。

なので、同時並行ではあって、広域の協議が始ま
ってしまうのかもしれませんが、あくまでも懇話会
での考えにプライオリティーを置いているという認
識でいいのですよね。

確認させてください。

それ、もちろんと答えなかったら変でしょう。

○武田浩一市民環境部長 諮問をさせていただきま
して、答申を求めていますので、そういうことでご
ざいます。

○近藤憲治委員 それぞれの事情があるとは思いま
すが、その事情ってやっぱり何度も言いますけれど
も、最終処分場の危機的な状況を放置してしまっ
た、さらに言えば、かなり実現できないような計画
をつくってしまったことに端を発していますから、
やはりそこはきちんと検証と反省がいるし、その上
で、また市民の皆さんに協力を呼びかけるわけです
から、懇話会の皆さんの御意見もしっかりと取り込
んで、市民向け説明会で毎回のように言われたの

は、これまでのまちづくり懇談会でもこういう改善策を示したのに、一向にやるもやらないも言わないと。

それでまた説明会で何を言っているのだという御指摘もありましたよね。

市民の皆さんの一つ一つの思いや疑問にきちんと向き合って答えを返していく、やれるものはやれる、やれないものはこういう理由でやれないのです、その積み上げをやっていかないと、広域ですとか、今度の間処理はこれですからルールはこうですと言ったところで、協力はしてもらえないと思います。

なぜかと言うと不信感があるから。

そういう状況にあるということ認識して懇話会も進めていただきたいですし、反省と検証も進めていただきたいし、まちづくり懇談会も臨んでいただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○武田浩一市民環境部長 しっかりと進めてまいります。

○近藤憲治委員 しっかりやるのは当然なのですが、そういう私がさきに述べた認識をお持ちなのですかということを伺ったのです。

○武田浩一市民環境部長 当然、そういう認識を持ってやってまいります。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○澤谷淳子委員 近藤副委員長がどういうことを求めているというのがちょっと私もわからないのですが、手順がおかしいとかいろいろあるかもしれないのだけれども、そういう意味では、広域化の問題も並行して考えていくのは、むしろ文教民生委員会として当然ですし、そういうことを全然、話し合いに入るのに手順がおかしいとかというよりも、それで言いますと、公明クラブとして、市長にごみの処分の、人口減少とか、埋立てのこととか、将来が心配で広域なども考えてみてはどうですかということを、代表質問で2年前から質問しています。

その質問に対して市長は、いや実は、ほかの町長、首長さんと広域化を進めていく話し合いをしているということを明確に答弁しています。

その手順がおかしいと言うのであれば、2年前からその話が変わらないかというのが出てきてもおかしくはないなと思っているので、むしろ、この場になって、本当に本格的に広域化を、むしろ文教民生委員会としても、広域化をもうちょっと、そっちの方向でどうやったらうまくできるのかということ

話していったほうがずっと建設的で、反省、検証もいいのですけれども、市民の方が逆に望んでいるかのような御発言ですが、私が出た肌感覚として、懇話会でも、懇談会でも、説明会でも、市民の皆さんのほうが焼却に早くなればいいねとか、ティッシュと割り箸を分けるのだったら、もう何ぼでも分けるよ、早く言ってくればよかったのにとか、前に進んでいますね。

広域も市民の皆さんのほうが早く広域化したらいのにねということ。

だから、市の方が説明するものが、皆さんがこうしたらいいじゃない、協力するよというものに対して何もお答えできなかったのが、ちょっと、皆さんの感覚が、いや、そんなのだったらというふうになってしまったのだけれども、きちんと広域化に向かって、どういうふうにやったらいいかを今検討しているだとか、焼却する考えがあるとか、そういうものをもっと言えればよかったのかなと逆に思ったぐらいでしたから、その反省と検証に立ったことをどうなのだとした市民の方は、私の肌感覚としてはいなかったです。

ただ、懇話会で座長を務めていた、何という方かな……逆にすごく自分にとって、前に座長やったのだけれども、むしろ反省していると、市の職員以上に、自分に反省した弁をおっしゃっていて、むしろ気の毒だったなと思ったぐらいでしたから、それを全然反省してないとか、そんなことは全然なくて、よいものに進めていきたいから、今回の懇話会も自分たちだけの責任、この数人だけの責任と捉えないで、参考意見とするぐらいの形で捉えてほしいということも、むしろおっしゃって来ていました。

私もそのとおりだと思っています。

なので、もっと前に進める意見の交換ができればと思っています。

○近藤憲治委員 委員間討議をお願いします。

○松浦敏司委員長 では、近藤委員、委員間討論。

○近藤憲治委員 それでは、今ちょっと澤谷委員から御発言があった件で、委員間討議をさせていただきたいと思います。

私も別にですね、前に進む議論をするなど言っているわけではないのです。

するために、こういう手順を踏んでくださいというのを、もう2月から言っているのですよね。

澤谷委員、2月の議論を思い起こしていただきました

いのですけれども、政策提言というものをつくりました、文教民生委員会です。

その政策提言というのは、この委員会の委員全員の総意で取りまとめたものです。

その際に、今後のごみ政策を広く検討するに当たりという項目があります。

その項目の中に、まず、「一般廃棄物処理の当初計画と実際とが大きく乖離した原因や背景の検証は、次期計画策定に不可欠なものであるため、当初計画の瑕疵が生じた原因と背景の検証を速やかに行い、市民と共有し、次期計画策定の礎とすること」とうたいました。

また、澤谷委員から広域化のお話がありました。

この政策提言をまとめる際の委員会の総意はこうです。

「広域化及び中間処理への焼却の導入については、市民の間でも様々な見解があり、スピードや結論だけを重視した検討では、市民の理解や共感を得ることが困難であるため、前段として、網走市単独のごみ処理の基本的な考え方やビジョンを改めて共有し、広域化や中間処理への焼却の導入の必要性が認識された上で検討に入ることをこの委員会で合意して出しているのですよ。

まずは、検証と反省をやってください、しかもそれを速やかに。

これ、2月に言っているのですよね。

○澤谷淳子委員 はい、今やっているのだよね。

○近藤憲治委員 それで、それをやっていただければ、広域の議論にも進めますよねという話をしているのですよ。

しかしながら、先ほど前段、議論しましたけれども、検証と反省はまだ続くのだというところですので、澤谷委員の先ほどの発言というのは、これまで委員会で積み上げてきたこのごみ問題に関して、前向きな議論はもちろん必要だと思っていますが、そこに至るまでの手順を既に示しているわけですから、それをやってこなかったら、市側に問題があるのではないですかとお話ししたいと思います。

○澤谷淳子委員 たしかに2月の段階で、委員会として反省と検査の上に、広域化をやっていくものに進めていくということを決めましたので、その結果が、この6月28日付けの回答だったということで、それに対して、金兵委員がもうちょっと個別のものを載せて欲しかったということでおっしゃいましたら、追加していくということも言っていただきました。

たので、それで私は納得しております。

なので、もっと広域化とか、そういう話し合い、本題に触れていきたいなという思いはしています。

別に、そこがないから、一言一句、何と云うのでしよう……こちらの思いと違うからそれがというふうに私は聞こえてしまうので、私はそういうふうには思っていないので、前に進めていける、また市民の皆さんにも、そういうもの、先ほども何回も言っているけれども、ではこうしていこうと考えているのですということと言えないので、市民の皆さんも、いやこんなこと、あんなこといろいろあるよと教えてくれるので、早くそういう前に進むようなことを議論していきたいなと思っているのです。

2月に決めたことは、私もそのとおりだと思っていました。

○工藤英治委員 委員長、委員間討論は後ですと言ったでしょ。

○松浦敏司委員長 それでは、ちょっと他の委員も発言がありますので。

○金兵智則委員 今、両方のことがおっしゃっていることは、また後ほどもう1回やるということで、ちょっと改めて懇話会についてお伺いしたいのですけれども、今3回目が終わって、4回目がちょっと時間が空いて9月にやるのですよね。

これ結局、スケジュール的に、たしか今年度中に答申を受けるというような話をしていたかと思うのですけれども、これでちょっとずれたりするのか、委員の皆さんはたしか2年契約とは言わないですね、2年が任期になるはずなので、別に今年度ではなくてもいいのかもしれないですけども、早くするために、今年度中という説明がこれまでであったかと思うのですけれども、スケジュール的に、懇話会も6回というふうに聞いていたと思うのですけれども、スケジュールどおり進んでいるかどうか、ちょっとお伺いしたいと思うのですけれども。

○近藤賢生活環境課長 懇話会の回数、当初、おおむね6回、前例を含めて6回というふうに見込んではいたのですが、今の反省、検証にも関わりますが、最終処分場の関係の説明、あと、生ごみの関係の説明と進めた中で、その議論もたくさんありましたので、昨日の懇話会の段階で、事務局として、当初6回を見込んでいましたが、7回、もしくは、それでも足りない場合は増やす可能性があるという説明はさせていただきました。

○金兵智則委員 となると、この2か月の、まあ別に懇話会のスケジュールに対して文句ではないのですが、2か月空いてしまうことに対して遅れないのかなという心配なのですから。

○近藤賢生活環境課長 できれば8月にも開催したいところだったのですが、7月の中旬から8月のお祭り後ぐらいまでは、まだ日程は決まっていないのですが、まちづくり懇談会が入ってきますので、そこを除くと、できるだけ早い段階で日程調整したところ、9月1日という形で、会長の空いているスケジュールがございましたので、今回は9月1日と、そして基本的には年度内に答申を考えているところでもあります。

○金兵智則委員 やりたいのは早くどんどんやりたかったけれども、回数を増やすことになっても、取りあえずスケジュール的に遅れが出ているわけではなくて、様々な事情で回数を増やしても年度内だというスケジュールは変わってないという理解でよかったですね。

○近藤賢生活環境課長 その御意見のとおりです。

○金兵智則委員 わかりました。

懇話会でまた反省と検証もいろいろと話さなければいけないというのもあるとあって、回数も増やしていくというのはわかりました。

様々な議論、ちょっと委員間討論も始まってしまような雰囲気になってしまっているの、改めてちょっと言いたいというか、聞きたいと思うのですが、反省と検証は取りあえず多分6月28日、これで一旦提出なのだと思っていました。

ちょっと言い方が失礼なのかもしれないですが、はっきり言って足りないですね。

僕のイメージからいくと、こういう文書的なものではなくて、もっと報告書的なもので、ここが悪かった、ここが悪かった、ここが悪かった……とかという感じで、なので、ここの改善には、こういうこと、こういうこと、こういうこと……例えば具体的に言えば、資源化できるものを100%分別する計画を策定しましたが、結果として計画どおり進みませんでしたと。

これは、結果として計画どおり進まなかったのは、この書き方で言えば、この3分の1は分別がされなかったとかというのがありますし、もしかすると、そもそも計画的にどうだったのだ、計画数値がどうだったのかということも、比較というか、検

証した上で結果こういうことだったのですというのが出てくるのかなと思ったのです。

なので、個別具体的なものについては、別途、箇条書きでも、どんな形でも構わないので必要になりますよと。

それこそ澤谷委員がおっしゃっているとおり、今後の話をする材料にするために、この総論で書いてもらうとふやっとしているので、多分、判断もふやっとなってしまうのですよね。

だから、数字的にガンっと、具体例があれば、さっきの石垣委員が午前中に言った、破袋機の性能の話じゃないですが、この性能では足りなかった、これより高いものが今後は必要だということの判断ができるのですよね。

そういうことのために、市が出した反省と検証に対して書き直せとかというものではないと僕は思っているの、そうではなくて、個別具体的なものをきちんと上げられるような形でやっていってくださいと。

それを検証と反省の継続と言うのか、改めての精査と言うのかはわかりませんが、それはもちろんやっていていただきたいというふうに思います。

というのも、澤谷委員がさっきから言っている広域化の議論、今後の中間処理の議論を進めていくに当たりの、材料にするためにそれをきちんとやってほしいというのを、近藤委員も多分ずつとやっているのですよね。なのだと思います。

なので、澤谷委員がさっきおっしゃっていましたが、ごめんなさいね。ちょっとちゃちゃ入れるような形になるかもしれないですが、文教民生委員会で2月に礎にしないと言ったよ、その後の予算特別委員会の附帯意見、あれは委員会ではなくて議会として出していますから、それに賛同された方はあれを出したという形になるので、そこはやっぱり踏まえてもらわなければ、それを踏まえた上での多分6月28日だったのかなと、僕自身はちょっと理解をするところです。

広域化については、この間の一般質問で栗田議員がおっしゃった、焼却炉の更新に当たってがきつかけだと。

だから、広域なり焼却がまずスタート地点に出たのだよというような、一般質問の中で答弁があった。

なので、広域化というのは進めていかなければな

らないのだというふうに思います。

それがきっかけで話が出てしまっているの、進めていかなければいけないのだと。

なので、反省と検証をした上で、市民が理解されたかどうかはまたちょっと、疑問点もまだありますけれども、そういった意味を踏まえて、やっぱり広域のほうには進まざるを得ないというか、進んでいってもらわないと、それはそれで困るのかなというふうに考えるところです。

これを意見として、本当は質疑にしなければいけないのかもしれないですけども、そういった考えで僕は思っています。

市としても、なので6月28日に出したものは、一旦の区切りというふうな理解をしたいと思っておりますけれども、副市長そういうことで間違いはないですかね。

○後藤利博副市長 今、金兵委員からありました。

そのとおりでございます。

○金兵智則委員 それを踏まえて、懇話会と並行しながら、電車が2両ばあっと進んでいくというのも、ちょっと疑問に思うところもありますけれども、ここはやっぱり進めていっていただきたいというふうに僕自身も思うところがあります。

以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、この第一議題の、一般廃棄物処理について、二つありました。懇話会の問題、それから、一般廃棄物処理の反省と検証については、今日のところはこういった状況にして、反省と検証については、今後も進めていくということにしたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、そのように決定します。

では、ここで理事者退席のため暫時休憩いたします。

午後2時03分休憩

午後2時04分再開

○松浦敏司委員長 それでは再開いたします。

当委員会としての一般廃棄物処理の反省と検証について、前回の委員会でも、皆さんに正副である程度まとめたものをお示したところでありますが、まず、副委員長のほうから、その部分について説明をしていただきたいと思います。

○近藤憲治委員 6月20日の所管事務調査の際に、

各委員のお手元に配付をさせていただきました、文教民生委員会としての検証を進めるに当たっての当面の視座という文書でございます。

こちらにつきましては、最終処分場は当初計画より早く埋まっている原因と当初計画と現実の乖離の原因、大きな二つの項目に分けてそれぞれ三つと、11項目ですね、お示しをさせていただいたところがあります。

これは、各委員お持ち帰りをいただいて、引き続き委員会としての検証を進めて参りましょうということで、今日に至っていますので、これを読んでいただいての所見を伺いたいというのが一つと、あともう一つは、これ最終的に取りまとめてまいりますので、取りまとめたものをどのように市民の皆さんにフィードバックしていくのかという手法について、例えば、議会のホームページに掲載をするでありますとか、議会だよりに掲載するですとか、そういった手法についても、具体的なお考えを伺いたいというふうに考えております。

○松浦敏司委員長 ありがとうございます。

というような方向性を持っておりますが、まず皆さんから新たにこう加えるべきだとか、これは必要ないだとかも含めて、皆さんから御意見を頂きたいと思っております。

○金兵智則委員 これを減らしたほうがいい、これを追加したほうがいいというものなく、すごく丁寧にまとめていただいたなという、もう感謝しかない状況です。

それですね、これを6月20日に頂いて、正直に言いますと、市から出てくる反省と検証が、もう少しこれとですね、付け合わせができるようなものが出てくるのかなと僕自身はちょっと思っていた、さっきも具体的なものという話をさせていただいたのですけれども、これと付け合わせられるものが出てくるのかなと思っていたのですけれども、ちょっと総論的なもので、終始されているので、これをつけ合わせるといった話にもならないのかなというふうに思います。

これはこれとして、委員会としてまとめられるのであれば、これが反省と検証の結果ですという、オープンにどんな方法があるのか、ホームページなのかが出るのか、はたまたちょっとほかの方法があるのかわからないですけども、オープンにすることもあれですし、前回の委員会で工藤委員もおっしゃっていましたが、これを多分、今後の計画の

中で、新しい計画ができ上がっていく議論、それに向けて議論されていく中身を、これを基にチェックしていくというような形になっていくのかなというふうに理解するところであります。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○石垣直樹委員 6月20日にまとめていただいた文章でございますが、今日新たに、今日の委員会で資料を頂いたのを拝見させていただいた中で、草、枝、木類、こちらが、この資料を見ると、機械に詰まって機械が停止することがありますと。

多い時期には、生ごみとして搬入されてくるものうち2割ほどが草になっていますと、なっているのですけれども、市民は草や枝木は生ごみとして出してくださいとされているのですよ。

けれども、現場レベルでは、これは機械が停止する原因になっているのですよ。

こういった細かいことが起こっているのを放置され続けている。だったら、この草、木、枝は、最初から埋立てにするとか、例えば草は、酪農家さんたちにあげるですとか、枝木に関しては町内会ごとにまとめていただいて、例えばWIND-SMILEさんに回収してもらって、町内会の運営費にしてもらうとか、いろんなことができるはずなのに、こういった細かい1個1個をそのままに放置していたというのも、原因の一つとして考えられるのかなという、今日の資料を見て感じさせていただきました。

あと、今日の資料を見ていくと、今日の資料の、ページ数は書いていないのですけれども、別紙に、網走市のステーション収集に関わる問題というのがございまして、その2、ステーションの維持管理状況の②ステーションの移設新規設置の体制、ステーションの設置は町内会を通じて行ってきましたが、地域によって町内会がほとんど機能していない場合や、町内会、自治体がない地域もあり、対応に苦慮することがあります。

次ページにあって、新興住宅街には世帯数が増えなくても、新たにステーションを設置する話がまとまらず、時期によってはごみがあふれるなど、厳しい状況が続いています。

実際、これ、起こっている問題でして、幾ら市民の方々にさらなる分別をお願いしていても、そもそも住んでいる住民に関しては、ごみを捨てる場所がないのに、まずごみを捨てる場所をつくってから分別だろうというような、不信感ではないのですけれども、そういった状況を放置したままで、市民にさ

らなる分別をお願いしている、少しちょっと本末転倒と言いますか、結果、3の②にある、通りすがり排出、自分が住む地域以外のごみステーションにごみを捨てるケースが急増していますと。

このほとんどが違反ごみで、違反シールを貼って残されるので、地域の方が困っていますというような事態が起こっていると、こういったことを解決していくのがまず先といたしますか、やらなければいけないことなのかなというふうに思いました。

前回、6月20日の資料を見ていくと、書き方なのですけれども、最後に、「議会として理事者の説明を信じてしまった」という文言があるのですけれども、ちょっと表現を変えたほうがいいのかなと。

まるで理事者が言っていることが全てうそのように感じてしまう表現なので、そういうことを言っているわけでないのはわかるのですけれども、もうちょっと違う表現に、例えば、議会としてもさらなる検証が必要であったとか、議会としてさらなる議論が必要であったとか、そういったちょっと違う表現にしたほうがいいのかなと思います。

以上です。

○松浦敏司委員長 他に。

ちょっと待つてね。

工藤委員が、先ほど手を挙げておりましたので、いいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○工藤英治委員 反省と検証、それは私たち議会の議決責任も絡んだ問題だと思っています。

そして、このごみ処分場の問題ですが、本当に、埋設量、その計画からかなり乖離した形が出てきた。

これら、吟味してみるには、本当に最初から、検討段階から無理があった。

これが、誰が見てもわかるような結果が出てきているし、出てきた結果から見ると、本当に繰返しますが、誰が見てもそのとおりになるはずだということが現実出てきている。

そして、またごみの破碎機等に関しても、当然、今出された数字、本当に誰が見てもわかるはず。

何でこんなチェックできなかったのか、それは議決した私たち委員も本当に反省しきりではありますが、これらをこのまま終わらすのではなく、逐次、案を引き出しながら、そして、自分たちの反省点にもしながら、そして、次のステップの中で最大限活かせるよう努力する。

これらが最大、最善の道か、それが市民に対して、私たちの議決責任としても認めてもらうような形で、なるように努力することが委員会の使命と、そういうふうにする次第でございます。

○澤谷淳子委員 私もですね、実は前回の、本当に工藤委員が最後におっしゃっていたのですけれども、この近藤副委員長がつくってくれた、この細部にわたるこれ自体がチェックリストだと、前回おっしゃってくれたのですよね。

チェックリストとして、今後のバイブルというか、そういうふうになり得るものなので、これについてはつけ足したりなんだということはありません。

ただ、さっき石垣委員が言ったように、ちょっとこの言い方を、全て何か理事者の言うことを信用してしまったというような表現なのですから、ちょっと少し変えていただければなというところだけです。

以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○近藤憲治委員 この委員会独自の検証について、御議論いただきましてありがとうございます。

こういう視点が、本来であれば、市側がつくった検証と反省と共有されることが望ましいのですが、残念ながら、でき上がった市側の文書とは、相当な視点のずれというか、議会側のほう、委員会のほうは一生懸命、細々と検証したり反省したりしているのに、とても残念な気持ちを持っています。

これを、やはり市民の皆さんにもお示しをして、次の計画策定に生かしていくのですということが大事なので、今日も頂いた御意見盛り込みながらですね、さらに文案をまとめてまいりたいと考えています。

○松浦敏司委員長 それで、若干休憩しますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

休憩します。

午後 2 時 17 分休憩

午後 2 時 23 分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

それでは、休憩前にいろいろ議論していただきましたが、休憩中、ちょっと皆さんの御意見も伺ったところではありますが、この我々当委員会としての、一般廃棄物処理の反省と検証について、今後どういった形で取り扱っていくかについて、委員の皆さんから御意見を頂きたいと思っております。

○金兵智則委員 この反省と検証が、今後の議論のチェックリストになっていくと思いますし、反省と検証が今後、最終処分場の延命なり、中間処理を今後考えていく、そして広域を考えていく中で、またこれもずっと続いていくものなのだと思います。

なので、最終的なというよりは、これはもう今の時点で公表をしてしまって、これがどンドン議論の中で変わっていけば、第 2 段、第 3 段、バージョン 1 なのか、バージョン 2 なのか、何日現在という出し方はちょっとその辺はお任せしますが、すぐ公表はしてしまってですね、変わった時点でまた変わった時点のものを公表していくといったような形でいいのではないかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○松浦敏司委員長 今、金兵委員から、そのような提案もございましたが、そんな形でもよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、そんなふうに、現時点での文章ということで。

○近藤憲治委員 今日の段階で御議論いただいた部分もごございますので、付け加えられる部分はつけ加えるのと、あと、その口語体で文書を書いてあるところがありますので、そこは整理をさせていただいてと思っております。

○松浦敏司委員長 では、そんな形でもよろしいですね。

では、そのようにいたします。

○松浦敏司委員長 あと、もう一つ実はありまして、行政視察の関係です。

一応、前段、10月に行くということを皆さんに言っておりましたが、一応、相手側の 1 か所、重要視していた香川県三豊市というところが、10月 5 日から 10時から 11時半なら受け入れますというお話を頂いたそうです。

あと、その後 2 か所をどうするかということで、今、副委員長とも協議をしているところです。

一応、1 か所だけは取りあえず決まりましたので、その近辺でどうするかというふうになるのですが、副委員長のほうからもし何か言えることがあれば。

○近藤憲治委員 今日ですね、委員の皆様にも御相談をさせていただきたいのが、今回、廃棄物処理を大きくテーマにということで、まず一つ、御提案させ

ていただきたいのが、複数自治体の広域化での廃棄物処理で、非常に丁寧な、時間をかけた合意形成をしてきた、候補地もたくさん出してですね、かなり住民の皆さんも巻き込みながらやってきた例と、併せてクローズド型の最終処分場ですね、屋根がかかって、臭気等も外部に漏れないという処分場を既に有している、岡山県の津山圏域資源循環施設組合、これは津山市に立地しておりますけれども、これがまず一つ。

そして、もう一つが、兵庫県朝来市を軸としております、南但広域行政事務組合、こちらはですね、中間処理の手法として、焼却とメタン発酵発電ですね、有機物からメタン発酵による発電を行うというのの合わせ技、ハイブリットの施設を持っていますので、この2か所を加えた合計3か所で視察を実施してはいかがでしょうかということなのですが、県としては隣接しているのですが、それぞれ移動距離があつてですね、3時間半ずつぐらい移動しなければならないのですが、その移動距離も含めて、この候補地で進めさせていただいてよろしいでしょうかという御相談でございました。

○松浦敏司委員長 今、副委員長のほうから、そのような提案がありますが、そういった方向で進めていってよろしいかどうか。

いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、そのように、そのような方向で進めてまいります。

若干、相手方との関係もありますから、微調整は必要などころが出るかもしれませんが、それは正副に一任していただければというふうに思います。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、そのような形で進めていきます。

委員の皆さんから何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、それではこれもちまして、文教民生委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午後2時29分閉会